

令和元年度第2回別府市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和2年3月27日(金)
開会 午後2時 閉会 午後4時
- 2 場 所 別府市役所 1階レセプションホール
- 3 出席者
 - (構成員) 別府市長 長野 恭紘
 - 教育長 寺岡 悌二
 - 教育委員 福島 知克 (教育長職務代理者)
 - 教育委員 小野 和枝
 - 教育委員 山本 隆正
 - 教育委員 川崎 栄一
 - (意見聴取者) 教諭 小谷 洋介 大海 一弘 宮原 朋瑚
 - 指導主事 加藤 聡 千葉 優子 長嶺 敏雄
 - (事務局) 総務部長 檜山 隆士
 - 総務課長 牧 宏爾
 - 総務課参事 本田 壽徳
 - 総務課主査 高木 佳子
 - 教育部長 稲尾 隆
 - 次長兼教育政策課長 末田 信也
 - 教育政策課参事 藤田 一樹
 - 教育政策課課長補佐 加藤ひろみ 古本昭彦 縄田早苗 重岡秀徳
 - 学校教育課長 北村 俊雄
 - 学校教育課参事 志賀貴代美
 - 学校教育課参事兼総合教育センター所長 利光 聡典
 - 社会教育課長 三宅 達也
 - 社会教育課参事 森本 悦子
 - スポーツ健康課長 花木 敏寿
 - 人権同和教育啓発課参事 塩地美千代
 - 情報推進課課長補佐 松本 弘次
- 4 議 事
 - (1) 説明 新型コロナウイルス感染症対応状況について
 - (2) 講演 「GIGA スクール構想と未来の学校について」 土井敏裕講師
 - (3) 意見交換

発言者	発言の内容
総務課参事	<p>定刻になりましたので、これより令和元年度第2回別府市総合教育会議を開会させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>最初に、長野市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>皆さんこんにちは。令和元年度の第2回の総合教育会議ということで、教育委員の皆さんをはじめ、皆さんお忙しい中にもご参加をいただきまして、本当にありがとうございます。日頃から子どもたちのためにさまざまなご指導をいただいておりますことにも、合わせて感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>まず、議題にもあげておりますけれども、コロナウイルスの対策については、詳しい現状説明があらうかと思いますが、とにかく、東京や首都圏を中心に今爆発的な感染拡大を懸念されているという状況で、別府市も今のところは、しっかりと対策して、現状において感染者はゼロということであります。しかしながら、いつ、どこでクラスターが発生し、感染拡大の元になるかわかりません。最悪の事態は想像したくはありませんが、やはり行政としては最悪の状況を勘案して、それに対応できるだけの体制をとっていかうということで、様々な場合を想定しながら、対策を講じているところでございます。心配なのは、一斉休校の中で終業式も卒業式も迎えましたので、子どもたちのストレスが如何ばかりかと、また、それを日頃から見守る保護者はもちろんのこと、現場の先生方、そして、放課後児童クラブやさまざまな関係者の皆様のストレスは大変なものじゃないかなと思っております。そういった様々なことを勘案しながら、別府市としては、国の動向をまず見た上で、別府市独自の今おかれている環境に則した行動をとっていくということで、考えていきたいと思っております。また、教育委員や皆さん方にご相談させていただくことがあると思っておりますので、コロナウイルス対策についても、また常時皆様方のお力添えを賜りたいとお願い申し上げます。</p> <p>そして、本日は、「GIGAスクール構想と未来の学校」ということで、土井先生にお越しいただいております。子どもたちの方が、いわゆるICTの活用というのはすごく上手くて、どちらかと言うと、現場の先生方も相当に困惑があるのではないかとと思っております。先ほど土井先生ともお話をさせていただいたのですが、技術ばかりが先に行ってしまうと、中身が後について行くようなことがないように、頭でっかちな子どもたちを育てていくということではなくて、ICTを使いこなせるように、中身をしっかりとみんなと一緒に</p>

<p>総務課参事</p>	<p>考えていかなければならない、と思っております。なかなか分かりづらい分野でございますので、土井先生のお話、私も非常に楽しみにさせていただいております。突然皆さん方に質問が振られることがあるようでございますので、覚悟をした上で、今日は土井先生のお話を聞いていただければと思います。</p> <p>これからも、別府市の子どもたちのために、より良い様々な対策を皆さんで講じていくと、改めて確認させていただいて今日のご挨拶とさせていただきたいと思っております。どうぞ最後までよろしくお願い申し上げます。</p> <p>これより議事に入ります。総合教育会議運営要綱第3条に、「市長は、議長として会議の議事進行を行うものとする。」と規定されておりますので、以降は、市長に議長として議事を進めていただきます。市長よろしくお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。それでは議事を進めさせていただきます。</p> <p>別府市総合教育会議運営要綱第6条第2項の規定によりまして、今回の議事録署名は、寺岡教育長にお願いをしたいと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>はじめに、事務局より本日の議題について説明をお願いします。</p>
<p>総務課長</p>	<p>まず、配布しています資料の確認をさせていただきます。上から、「令和元年度 第2回 別府市総合教育会議」と書かれたレジメ、「別府市教育大綱」、資料1として「新型コロナウイルス感染症対応策について」、資料2として本日ご講演をいただきます講師の資料、以上4部となっております。</p> <p>続きまして、本日の議題について説明をさせていただきます。</p> <p>本日の議題は、「別府市教育大綱」の「取組みの方向性」の中から、2点を取り上げたいと考えています。</p> <p>お手元の「別府市教育大綱」の5ページをお開きください。</p> <p>「基本方針2 安心して子育てができる教育環境の整備」では、基本方向4において「教育環境の整備」を掲げています。ここでは、「園児児童生徒に健康で快適な学習環境を提供するため、教育環境の向上を図ること」を記載しています。</p> <p>そこで、今回は、この基本方向4をもとに、レジメの次第にありますように「新型コロナウイルス感染症対応状況」について、すでに対策本部で情報の共有は図られていますが、これまでの取組をあらためてご確認いただくために議題1として設定させていただ</p>

<p>市長</p>	<p>きました。また、議題2といたしまして、「GIGA スクール構想と未来の学校について」と題し、教育情報化の専門家である土井敏裕先生にご講演を賜り、その後、本市において、教育の情報化をどのように進めていけばよいかについて、ご協議をお願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p> <p>はい。それでは、「新型コロナウイルス感染症対応状況」について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>末田次長</p>	<p>現在の別府市教育部関係の新型コロナウイルス感染症の対応状況について、ご説明申し上げます。</p> <p>3月24日に文部科学省から「令和2年度における小学校、中学校等における教育活動の再開等について」の通知が出されました。別府市教育部としましては、春休み期間中はもとより、4月8日以降の新学期に向けて、感染症対策に万全を期すために、学校、家庭と連携した、様々な対応・対策を検討しています。</p> <p>具体的には、感染源を絶つために、毎朝の検温及び風邪症状の確認、感染経路を絶つために、正しい手洗いの励行及び咳エチケットの徹底、抵抗力を高めるために十分な睡眠、適度な運動や、バランスの取れた食事を心がける等です。</p> <p>そして、集団感染が起こりやすい3つの条件が重なる場を徹底的に避けるために、換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底、多くの方が、手の届く距離に集まらないための配慮、近距離での会話や大声での発声をできるだけ控えるなどの対応などについて、市内の全幼稚園、小中学校、並びに家庭に対して、引き続き指導や協力の要請を行っていきたいと考えています。</p> <p>しかしながら、咳エチケットを徹底するためのマスクが、全国的に不足し、手に入らない状況が続いていることから、現在、市内のすべての園児、児童生徒に1人1枚、「繰り返し使用可能なマスク」を配布できるよう、準備を進めています。</p> <p>また、小中学校の臨時休業が長期化していることに伴い、各学校が家庭訪問や電話連絡等を通して、子どもたちの様子を確認したところ、運動不足や生活習慣の乱れや心身のストレスなどの心配な実態が見えてきたことから、個人のストレスを解消して心身のリフレッシュを図ることや、体力の維持につながる目的として、本日から利用時間等の一定の条件を設けた上で、図書館や美術館を開館しております。</p> <p>さらに、テニスコート、陸上競技場、パークゴルフ場の屋外体育施設についても高校生以下の使用を許可したところであります。</p>

<p>市長</p>	<p>学習面における未履修部分については、各学校で把握や集約、引継ぎ等を確実にを行い、家庭での課題学習や、次年度の授業で対応するようにしております。</p> <p>繰り返しになりますが、依然として感染症の発生、広がりリスクについては、予断が許されず、要警戒の状態が続いております。</p> <p>今後の状況次第では、始業式や入学式をはじめとする各種行事や学校教育活動の中止や制限及び臨時休業措置の復活等あらゆる事態を想定しながら、子どもたちの命と健康を守るために、迅速かつ適切な対応を行いたいと考えております。</p> <p>以上、現在の別府市教育部関係における、新型コロナウイルス感染症の対応状況についての説明とさせていただきます。</p> <p>只今の事務局説明について、ご質問ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>今後も予断をゆるさない状況にありますが、現状を注視しながら、感染拡大の防止のため、今後もよろしく申し上げます。</p> <p>次に土井敏裕先生による講演に移ります。土井先生、よろしく申し上げます。</p>
<p>土井講師</p>	<p>(講演)「GIGA スクール構想と未来の学校について」土井敏裕講師</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、ここから意見交換に移りたいと思います。</p> <p>土井先生のご講演を拝聴し、今後別府市の教育においてICTをどのように活用して、どのような教育を実現していくのか、また配慮すべき点はどのようなことなのか等、感想を含め、意見を交わしていければと思います。</p> <p>どなたからも結構です。ご質問、ご意見がある方は、いらっしやいませんか。福島委員さんどうぞ。</p>
<p>福島委員</p>	<p>生徒はみな個性が違います。そうすると、30人学級ですと、30人全部個性が違うということになります。成績も1番から30番までいるわけです。そのような状況の中で、コンピューターは1人に1台提供されるので、最初からこの生徒にはこの教え方をしよう、この生徒には足し算を教えてあげよう、この生徒には掛け算を教えてあげようなど、この生徒にはこういう教え方からやれば最後にここまで到達できる、そういうことを先生たちが自覚をもって、生徒一人ひとりに作る力、考え方を与えることができるかというのが、「1人に1台のコンピューター」の一番の目的だと思います。その</p>

土井講師	<p>点について、どういうメソッドがあるかというのを私は一番知りたかったのですが、今そういうメソッドはあるのですか。</p> <p>あります。個別最適化学習という言い方をします。少し前は、アダプティブ・ラーニングという言い方をしていたのですが、要は個性とか学習の到達度に合わせた教材を、ということです。それは今どうやっているかという、先生が全部アナログでやっているのです。僕もやっていました。5年生を担当した時に、掛け算九九を言えない子どもがいた時に、九九のカードを作って子どもと毎日トレーニングしていました。それを全部の子どもたちに、先生たちが1人でやっているのです。それを補っていくために、今は、AI型ドリルというのがあります。有名な千代田区立麹町中学校では、キュービナというソフトが使われています。ある程度問題を解いていくことによって、その子の理解力とか到達度をAIが分析して、その解答のレベルに合わせて、あなたにはこの問題が適正ですよ、と、ある一定のところまで1年間かけて到達させていくというのを、今はAIがやっています。では、先生は何をするのか？といったら、先生はもちろん今までしていた仕事もありつつなんですが、AIが入ることによってすごく楽になっています。アシストしてくれているという考え方なので、恐らく今回の議題の中でどういうコンテンツを入れていくかというのは、個別最適化のドリルなど、ツールというのは間違いなく入ってきます。そのために経産省が一番動いています。そこに対して10億円無償で補助を出すと言っていて、今までいっぱいお金儲けしてきた大きな企業ではなく、良いコンテンツをたくさん持っている小さい企業をなんとか拾い上げようという動きをしています。今のところはそのくらいですね。</p>
福島委員	<p>そのようなものがもうすでにあるんですか。一般的にそれがもう普及していて、買おうと思えば買えるのですか。</p>
土井講師	<p>買えます。福岡の学校では結構入っているところがあります。それは、この2年間かけて未来の教室のe d T e c h (エドテック) 実証研究っていうのを経産省主体でやってきて、ある一定の効果が出たので、今回10億円のお金をつけて全国的に普及させようというフェーズにきているので、もう実証は終わっています。</p>
福島委員	<p>もう一つはですね、ここは小学校・中学校なのですが、高校になった時に、「僕は大学に行きたい、私は九大に行きたい」と思っ</p>

	たときに、九大なら九大の過去問が全部ばつと出るとか、そんなメソッドはありますか。
土井講師	あります。昔でいう赤本ですよ。
福島委員	赤本は自分でまとめなきゃいけない。微積分が出た時は、微積分の過去問が全部出る、大分大学なら大分大学、九大なら九大。
土井講師	その辺は、基礎データがあればすぐにできる話なので、できていると思います。
福島委員	そうすると非常に早いですよね。
土井講師	そうですね。
福島委員	それがあれば、行きたい学科に行きやすくなるので、いいですね。できていることを先生たちは知らないのではないのでしょうか。
土井講師	はい。そのとおりです。
市長	ありがとうございました。では、山本委員どうぞ。
山本委員	<p>教育委員の山本です。今日はどうもありがとうございました。なかなか僕もイメージつかなかったのですが、今日いろいろ先生のお話を聞いて、多少なりともだんだんイメージが出来つつあるかなと思っています。</p> <p>ただ、非常に早急に予算措置され、一気に広げようということで、小学校の高学年と中学校がこの1・2年で入ってくるというお話でした。実は昨年、別府市内の中部中学校に行って、タブレットを使った授業を見学してきたのですが、それを見ていて心配になったのは、先生が一生懸命教材を作ってやっているのだろうということです。ひしひしと伝わってきました。タブレットでアプリを使うための資料を作るのに非常に時間がかかるのだろうなと感じました。</p> <p>授業の効率化のためにICTを導入するのに、ICTを使うための資料を作るための時間がかかってしまっていることが、非常に疑問です。</p> <p>ICTを使った授業は全国でやっているわけですから、標準化されたものをまず整理しないと、ICTは発展しないのではないかな</p>

<p>土井講師</p>	<p>と思います。かえって大変になるのだったら、おそらく頓挫するの だろうなと思います。</p> <p>I C Tを導入したら楽になる、つまり、先ほど先生や福島委員が 言われたドリルなどが楽になるなど、全体的に楽にならないと広ま っていかないのではないかと思います。</p> <p>つぎに、G I G Aスクール構想です。G I G Aというのは、すご い容量とを連想させる訳ですよ。そんなG I G Aな量をやり取り するような内容なのかというところで、本来であればこのタブレッ トを導入することによって、より深いものがもたらされなければな らないのだけれども、黒板の代用でしかないのが現状です。</p> <p>実際に、タブレット導入により、より深いものがもたらされてい る学校が、あるいは、そのモデルがあるのでしょうか。その例があ れば、こうやればいいんだという例になると思います。</p> <p>それと、やはりギガでやるメリットはネットワークですから連携 ですよ、たぶん隣の子が何書いているとか、先生が何を見ている のかとか、そういうのが見られるとか、たぶん5 Gはそういう宣伝 していますよね。その辺がG I G Aって言う割に伝わってこないの が心配でしたので、教えていただけることがあったらお願いします。</p> <p>そもそも、先ほど課題の質の話をしました。コロナのため休校 中の子どもたちに、as soon as の構文を理解するために、「as soon as を人に説明するための動画を作って提出せよ」という課題を出 し、クラスの一人一人が1 構文ずつ作って、デジタルコンテンツと してクラスで集めて、自分のクラスの YouTube チャンネルを作ろう としている学校がこのコロナの中であるのです。これはどういう技 術を使っているかという、グリーンバックを後ろに置いて、自分 の家で画面構成をして、後ろの背景のスライドと自分の顔を入れて、 前に iPad を置いて、動画を撮って、それを自分で組み合わせ て、30 秒のコンテンツにまとめて人に伝えるというのをやってい ます。これが1 人1 台の学び方ですね。ですので、課題の出し方や、 アウトプットの仕方できっと劇的に変わるのです。授業の枠だけで なく、家庭でも、どこでも、学びたいときに学ぶコンテンツを作っ て、これが全部動画でまとまって1 本、解説動画がクラスでできたら、 これはすごいコンテンツになるのです。これが今のスタンダードで、 私学などで結構やっています。すごいです。こういう風に自分が何か を発信するためのものとして使い、それが学びのためのツ ールとなっているというのが、今例として示したような感じです。</p>
-------------	--

	<p>この例であれば、先生が知っておくべきことは、グリーンバックでこういう風なことをすると、こういう動画が出来るんだよという動画の作り方です。それを先生は知らないといけないということです。コンテンツはたぶん生徒さんたちが考えるでしょう。</p> <p>でも、動画の作り方は、先生が教えなくても Google さんに聞けば、生徒は一瞬で答えを得ることができます。</p> <p>でも、この動画を作ろう！という「きっかけ」は、子どもからは出てこないですね。コロナの中で「自宅でドリルをやる時間があったら、ちょっと1本解説動画を作って提出しといてね」って言うかどうか、先生の大事なところで、作り方、つまり「画面構成ってどうやるんだっけ」というのは、子どもはインターネットで検索すればすぐヒットするので、そこは逆に教える必要はないかもしれないです。</p>
山本委員	<p>しかし、子どもの能力差はあると僕は思います。できる子は Google で検索して作り上げちゃうと思いますが、やっぱり苦手な子ども、一つひとつ使い方を教えてあげないといけない子はいると思います。今日の話でも、先生たちが教えなくても子どもたちはできますよ、と言うけれども、子どもたちの中でも格差があると思うので、丁寧に教えないといけない子どもたちもいると思いますが、そこはどうでしょうか。</p>
土井講師	<p>支援を要する子どもについてはいると思います。でも、普通学級に在籍していて、普通にスマートフォンを使っている生徒は必要ないと思います。それは、私たちの認識不足です。なぜなら、子どもたちは、幼稚園の時からタブレット型のおもちゃで遊んでいます。2歳の子どもの YouTube の使用時間は60分というデータが出ています。もう、僕らが思っているよりも子どもたちはどっぷりとインターネットの世界に入っています。小学校1年生に入学してくる子どもの67%は毎日インターネットをしているという回答も出ていますので、その中で得ている知識というのは、僕らよりも上である場合が往々にしてあります。</p>
山本委員	<p>使っているとは思いますが、例えば、どう検索すると思いだおりのものを見つけられるのかや、いろんなものが検索されてきたときに、フェイクを見抜く力というのは、ある程度やっぱり大人が指導していかないといけないのではないかと思います、いかがでしょうか。</p>

土井講師	<p>指導できる大人が絶対数少ないのが今の課題です。じゃあ大人が本当に絶対フェイクニュースに引っかからずに、デマに惑わされずに、インターネットの世界で生き延びられるのかというと、必ずしもそうではないですよ。ということは、大人の情報リテラシーが低すぎるのです。だから、トイレトペーパーが無くなると僕は思っています。そこをどう解消していくのかというのが、今の社会課題ですよ。大人が、大人になってインターネットの世界に入って、スマートフォンを持って、じゃあ今皆さんはどういう使い方をしていますか、どういう学びのツールとして使えていますかっていうと、まだそこに到達できてないのです。遊びと生活のために使っているの、そこをシフトしていかないと、たぶん指導できないと思います。今の先生たちに検索の仕方の一歩端的なやり方を指導できますかって聞いたら、たぶんできません。子どもたちの方がたぶんできます。そこをどう解消していくかというのが、今の僕の抱えている課題です。</p>
市長	<p>はい、ありがとうございます。それでは川崎委員さん。</p>
川崎委員	<p>ただいま土井先生のお話では、大きなビジョンがある中で、ICTの環境というものを入れること、つまり、タブレットを子どもに貸与することによって、課題を抽出していくなど社会で必要な力をつけていくことができるようになるということでした。このお話は、我々が企業人として今会社を経営している中で、会社そのものと認識しています。我々もデータビューというものを環境の中に入れていこうとした場合に、やはりある程度子どもたちに持たせて、その中で出てきたものを逆に育ててあげるみたいな、そんなことも必要な気がしますし、それを教師の方がフォローするとか。会社なんかと同じように、新人社員がやったものをベテランがフォローするみたいな、そういうことを感じましたが、今回ICTの環境というのは、GIGAスクールということで、一挙に始まっていくのに、別府市の今年度のビジョンはできているのでしょうか。また、そのビジョンがマッチしているのかななどを検討する作業が必要であると思いますが、短い期間でそういう作業が本当にできるのかなと心配です。その辺の参考になるお話とかあれば教えていただければと思います。</p>
土井講師	<p>はい。本当にそのとおりで、国のやり方は、あんまりだなと思っ</p>

	<p>ています。12月23日に言って、今年度の補正で出せという無理難題です。なぜなら、議会は終わっていますから。しかし、実際はもう少し猶予があって、たぶんコロナの影響でもう少しスケジュールが下がると思っていますので、最短で導入されても恐らく次年度末ぐらいがスタートになるだろうと思っています。今から6月議会にかけて、申請を出して、とはいえ、全国でこれだけの数の工事をする業者もなければ、物の供給も追いつきません。ですので、スタートまでには、恐らく1年くらいの猶予があると思えます。明日入るわけではないので、1年後を見据えて、じゃあ組織はどうあるべきかとか、利活用をどうしていくかとか、ビジョン持っていくのをどうするかとかを考えるチームを編成するという事は、今すぐやらなければいけないことです。現状は、教育情報化とか、GIGAスクールに向けて動き始めていた自治体がほとんどないのに、ボンと上からきているので、まずそこをやっていくのが必要じゃないかなと思います。すごいスピード感はあるのですが、実際に物が入っていくためには、まだまだ必要な要素がずっとしばらく長い間かかるので。一番早い自治体でもたぶん来年の今ぐらいにようやく物が入り始めるでしょう。今、中国が止まってしまっているんで、単純に物が足りません。部材が足りないし、供給できないし、iPadの発売もまだできないとか、携帯のメーカーも供給できないってことが今起きているので、スケジュールとしてはもう少し猶予があって、その間にまず下の部分をしっかり固めていくっていうのが一番大事なかなと。だから、今日みたいなことを何度も何度も繰り返しながら、別府市の方向性ってこうだよと皆さん共通認識して、合意形成していくっていうのが今必要なことかなと思っています。</p>
山本委員	<p>本来ならば、例えば県外の事例とか、先進地の海外の事例とかいうことを少し研修とかできればいいと思いますが、たぶん今はコロナの影響でできない中で、別府市の中で英知を結集してそういうものを作り上げていかないといけないという風なことでよろしいんですかね。</p>
土井講師	<p>そうですね。情報はそれこそネット上にも沢山出ています。でも、決めていくのはやっぱり別府にいる人間です。別府市としてどうあるべきか、というのを、また、皆さんで何度も何度もディスカッションを繰り返しながら、形を作っていくという。もちろん外からの情報も必要なので、僕みたいなプロのあちこち見てまわっている人間も中に入れた方がいいし、企業の人間も入った方がいいし、現場</p>

<p>市長</p>	<p>の先生もいた方がいいし、本当に普通の一般市民の方も入れて、皆さんで形を作るっていうやり方にしないと、やっぱり混ぜないとダメです。きっと。いろんなことを混ぜていかないと、一部の固定メンバーだけで議論をずっと続けてきた結果が今に繋がっているので、もうその段階ではないのではないかと思います。</p> <p>はい。では、小野委員さんお願いします。</p>
<p>小野委員</p>	<p>いよいよそういう時代になったのだなあと、はっきり言ってびっくりしたというか、そういう流れになっていかないといけないというのはとてもよくわかりました。このような授業をやっていけると良いと思いますが、これから新しいコンテンツや、授業のあり方、先生の果たす役割というのはどうなっていくのでしょうか。</p>
<p>土井講師</p>	<p>知識を注入していくやり方は、たぶん society3.0 の時代ですよ。効率のよい学ばせ方っていうのが、本当に100年以上前からずっと同じことを繰り返して、少しずつは変わってきているのですが、根本的には、みんなが前を向き、先生の板書をがんばってノートに写し、定期テストでがんばっていい点をとりにいく、というずっと変わっていないこのフレームをガツンとひっくり返さなければいけません。子どもたちが持っている可能性や、子どもたちの伸ばせるところをもっと伸ばしつつ、先生たちはアシストとか、ファシリテートとか、コーチングという役割にシフトしなければいけないと思っています。今まではティーチングだけに一生懸命になっていたと思いますが、「先生がティーチングしてくれることはもう手元にあります。そんな知識を教えてもらわなくても知っています。」と子どもたちが言ってきた時に、じゃあ学校に来る意味って何？、学校でみんなが集わないとできない課題って何ですか？、タブレットが手元にあって、情報操作がここにある時に、それでも解決できない課題って何ですか？というところを、先生たちがいかに子どもたちと一緒に学んでいけるかというところだと思います。どちらかというと、先生も子どもたちと一緒に学んでいくスタイルに変えていかないと、「よし、俺の言うこときいて、俺について来い」という感じではもうたぶんないだろうし、「いやいや、ここにあるし」と言われてしまうので、先生たちの意識を変えていくということが、たぶんこれから一番やらなければいけない話だと思います。</p>

小野委員	授業中はタブレットの画面をずっと見ながらやるわけですよね。友達や先生との会話っていうのはこういった形でののでしょうか。
土井講師	タブレットと一緒に授業するのですが、タブレットって子どもたちにとっては道具でしかありません。紙と鉛筆で勉強するとして、紙と鉛筆と向き合っていて、ずっと会話しないのですかというのと同じ疑問だと思います。つまり、分からなかったらタブレットで調べ、他にどこかやっているところはないのって検索して、あったあった！と子どもたちは話します。会話の量は減るというより確実に増えます。限られた情報じゃないところで子どもたちは泳いでいけるので、より多くの会話、より多くのディスカッションが生まれると思っています。
小野委員	タブレットは家に持って帰って使う形でやっていくのでしょうか。
土井講師	できればそうしたいと僕は思っています。ハードルはありますけれども、持って帰って使えるようにしなければあまり意味がありません。学びが寸断してしまいますので。でも、では誰が管理するのかとなると、また先生たちの業務が増えてしまいますので、子どもたちが自分で持って帰り、家で充電し、朝持ってくるというのが普通の使い方だと思います。僕はそれが理想だと思っています。
小野委員	やはり、私も子どもを育てた経験上、家でもタブレットを使った学習をするのであれば、家庭学習のあり方を本当に研究してやらないといけないかなと感じます。
市長	はい。では、教育長どうぞ。
教育長	今日はどうもありがとうございました。大変刺激を受けました。今別府市に8,000人以上の子どもたちがいますが、土井先生のお話を聞いて、これから教育委員会で何をすべきかということを実感しました。その中で個人的なことを一つ言います。用語についてです。コンピューター関係の用語で、クラウドという用語が理解できません。そこで止まってしまいます。調べましたが、なかなか理解できなくて、そこでストップしてしまっています。

土井講師	<p>今ここにいる皆さんは、全員クラウドを使っています。スマートフォンを持つということは、クラウドを使っているということとイコールです。スマートフォンのいろいろなシステムは全部クラウドと連携をしているので、例えば写真1枚をとっても、僕が今パチッとスマートフォンで写真を撮ったら、同時に3か所のクラウドにアップされるように設定してあります。ということは、私のスマートフォンがなくなっても、全部データが残っているところがクラウドです。例えば僕がパソコンを落として割ってしまっても、新しいパソコンを買えばクラウドに全部データが残っているので、そのデータをメモリーに入れれば元通りです。要は、メモリーが全部インターネット上にある状態です。インターネット上にあるというと、またややこしいのですが、クラウドというデータセンターが世界中にたくさんあり、その中に皆さんの情報がずっと入り続けているという状況です。日本にも、データセンターはたくさんあり、その中に大量の皆さんのデータが蓄積されています。目に見える形でデータセンターにデータがあるわけではないので、「クラウド」と呼んでいます。教育長のデータも既にクラウド上で管理されています。知らないうちに。</p>
教育長	<p>今、学校の先生方は、来年度は小学校、再来年は中学校、高校で導入に向けて、情報共有処理能力や情報処理の分野で、別府市の教育委員会でも一生懸命に研修を実施していますが、society5.0とか5Gとか、そういう時代に今からの子どもたちは生きていくことを考えた時に、別府市もGIGAスクール構想に乗り遅れないようにしないといけないなと思います。</p> <p>今日は市長さんも、財政の方もおられます。市長のご提案で、今、庁議などは全部ペーパーレスです。私もまだ違和感がありますが、非常に便利です。それはもう本当に便利です。難なく使えていますので、それが今度は子どもたちや家庭に行くとなると、子どもたちにとって、本当に必要不可欠なものになるのだろうと思っています。ぜひ、構想にしがみついて、市の方と連携をとりながら、早く参加していくことが必要だと痛感しました。</p>
市長	<p>はい。その他、先生方、現場で土井先生のお話を聞いて、具体的な疑問とか、今後の自分自身がやっていく上で、これはどうなのでしょうかなど、より具体的な疑問や課題があると思いますが、いかがでしょう。できたら、先生方からお話を伺いたいと思います。</p>

加藤指導主事	<p>土井先生、今日はありがとうございました。</p> <p>1点お伺いしたいことがあります。最後に可能性を生み出す自己表現のツールという言葉方をされておりました。ツールということは、文房具の一つとして使っていくと私もそう思っているのですが、それは何のための文房具かという、自己表現するための文房具という見方もあると思いますが、子どもたちが自己表現をする時に、例えば、自己表現するのが苦手とか、嫌いという子どももいると思います。そういった子どもに対しては、どのようにアプローチしていくのでしょうか。また、課題の設定にも繋がってくると思うのですが、その点のアドバイスをお願いします。</p>
土井講師	<p>おそらく皆さん端末を持っていると思いますが、それぞれ得意、不得意があると思います。チームで仕事をするとした時に、あの人は、どんどんアイデア出してすごいなとみんなに思われる人がいる。そのアイデアを一生懸命メモして、マッピングして形を作る人がいて、それをデジタルにダウンロードする人がいて。チームというのは、そういう風に構成されていると思います。全員がデジタルをバリバリ使えますという状況も、もちろんあっていいと思いますが、苦手な子は苦手な子なりの役割をきちんと与えていくのが学校であると思います。つまり、チームのみんなが、チームの中で同じパワーを同じように発揮したら、それはチームではなく、それぞれの個性を活かしながら、あなたに適切な役割はこれ、僕はこれができるからこれをしよう、とやっていくのが協同の学びのあり方だと思います。全員がデジタルじゃなきゃダメ、全員がここまでできないとダメ、ということはありません。ただ、自己表現が苦手な子は、往々にしてデジタルに強い傾向がありますので、そのような子については、その強みを引き出してあげるのもチームの強みだと思います。</p>
市長	<p>ぜひ、これだけはというのがあれば、ご発言をお願いします。</p>
宮原主幹教諭	<p>今日は本当にありがとうございました。別府市の子どもたちの現状としては、やっぱりいろんな格差があります。経済的な格差、家庭の教育力の格差、それから、いろんなルーツを持つ子どもたちがいるので言葉の格差などです。ほかにも、愛情の格差、学力の差など、色々あります。その中で、今までの society3.0 の部分の教え授ける部分で子どもたちの支援に各学校現場もがんばっていますが、より良いアプリが入った端末が1人に1台入ると、かなり改善され</p>

	<p>ることが、すごくうれしく思いました。逆に、自分たち教員は、小野教育委員さんが仰ったように、教員の間でも、みんなが共有し、変えていかなければいけないということが教職員の課題とっております。</p> <p>そうなった場合、やはり、ワクワクする研修、先生方が「これは楽しい、子どもたちと使いたい！」という研修が必要だと思います。それに対して予算がどのくらいかかるのか、そこが心配です。それだけです。お願いします。</p>
土井講師	<p>はい。実は、僕は、別府市にいる外国籍の児童、生徒の支援をしています。日本語が喋れない外国籍の子どもが結構たくさん入ってきて、その中でも、別府と中津が県内で一番多いです。今、外国籍の児童、生徒の支援のためのICT活動をやっていて、言語の壁や学習格差が問題であると考え、オンラインである無料の教材を紹介しています。オンラインの無料の教材に救われている子どもが既にたくさんいるのが現状ですので、そこを足掛かりにして、そういった面もサポートできたらなと思っています。</p>
市長	<p>他にこれだけは聞いておかなきゃということはないですか。</p> <p>外部人材を遠慮なく、ためらわずにどんどん活用し、教員も我々もどんどん自分たちがアップデートしていかなきゃ、恐らくこれは大変だなと正直思います。先生方や私たちも頭の切り替えが必要です。</p> <p>今まではティーチング、つまり、知識を教えるということがメインでしたが、答えを導き出す方法としては、ネットなど、情報は今や無限にありますので、その中からどのようにアシストしていくか、ファシリテートしていくか、コーチングしていくかなど、そういう能力がすごく問われています。能力を上げていかなければいけません。恐らく先生方のアップデートによって子どもたちの力に差がついてくるのかなと個人的には思いました。教育目標は、しっかり立派なものがありますので、その目標から逆算して、端末がある無しにかかわらず、端末の使い方やネットの使い方などについて、外部人材をいつお呼びして、どういう形で物事を進めていくかということが大事であると思います。</p> <p>とにかく、探り探りで。最初からパーフェクトにできることは恐らく無理だと思いますので、他のいい事例を参考にしたり、より良い活用方法を探したりなど、探り探りやっけていかなければどうしょ</p>

	<p>うもないと私も思います。しかし、あまりにも唐突感がすごいなども感じています。まずは端末の準備から始め、3年くらいかけて、何からの方法での先生方へのアップデートをしていき、子どもたちへの教育にICTをフルに活かす構想を進めていかななくてはけません。もう少ししっかりと準備ができるように、前もってしてくれるものだと思っていましたが、なぜ急にバタバタと始まっていくことになってしまったのか、よく理解できてないのですが、いずれにしても、やらなければなりません。土井先生、是非、これから何度も来ていただいて、いろいろとお力添えいただけるとありがたいと思います。</p> <p>別府の方なので、もう逃がさないという気持ちもあるのですが、先生から「何度も来ます」という一言をいただくと有難いと思います。</p>
土井講師	<p>はい。今回、色々とお話させていただいたのですが、市長さんと僕は歳が1歳しか変わらなくて、同級生など、よく知っている皆さんもいます。教育長さんとも色々繋がりがあって、もちろん自分のルーツが別府にあって、僕は別府で教育を受け、小学校4年生の時に小学校の先生になろうと決めました。そのくらい僕は学校が好きで、僕のルーツはもちろん別府にありますので、正直ずっとやりたいて思っていました。以前は立場的にやれないことがありましたが、今はそういうのは全くなく、自分の意志で自由に動ける立場になりましたので、お力添えできることがあれば、いつでも呼んでいただければ来ます。</p>
市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>丁度お時間になりましたので、今日は教育委員の皆さん、また先生方、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。学校のICTを利用した教育については、先ほど申し上げましたように、しっかり皆さん方の意見を聞いて、教育委員会の中で方針を決定していくということになろうと思います。皆さん方のご意見、また、土井先生の今後たゆまぬアドバイスをいただきながら、我々もしっかり未来の子どもたちのために、必要な力をつけさせていくということで、その力をつけさせるための協力を皆さん方とやっていきたいなと思っております。ということで、議事を終了とさせていただきます。皆さんいいですか。思い残すことはありませんか。じゃあ、事務局にお返しします。</p>

総務課参事	<p>ご協議ありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、令和元年度第2回別府市総合教育会議を終了いたします。</p> <p>本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。</p>
-------	--